

# 平成28年度 サンライフ御立ショートステイ

## 事業計画書（案）

昨年度から異動や退職者、産休取得などにより職員数が不足しており、職員の負担が増加している。今年度では即戦力となるべく中途採用者の育成に力を入れ、人員を揃えたうえで新しいチームとしてまとまっていけるようにしていきたい。また、活力ある職場づくり（リフレッシュ休暇・資格取得など）を引き続き行っていく。

平成28年度は異動により相談員が替わるが、業務の引き継ぎをしっかりと行い、内外に混乱をきたさないように、外部との連絡、班内での連携に力を入れ、新体制にスムーズに移行していけるよう努めていく。

### I. 介護人材確保と育成・定着

- ① 前年度に引き続き、経験年数が少ない職員や技術不足の職員に対して介護講習や接遇研修を実施し、個々の技術の底上げ・向上を図る。また、前年度に作成した接遇に関する基準を周知徹底していく
- ② ショートステイ内でケアマネ対応を想定した電話対応内部研修を行い、電話対応がトラブルにつながらないように指導していく。また、専用に作成したメモを使い誰もが外部からの電話内容を正確に伝えられるようチームのとしての連携を図っていく
- ③ 入退所時に荷物チェックを行っているが、忘れ物等があり徹底できていない。電話対応と並んでショートステイでは非常に重要な業務であるため、新職員にも徹底した指導を行い、誰が行っても間違いや抜けのないようにしていく
- ④ 昨年度からのチューター制度の導入によって、3ヶ月の期間を経て独り立ちとし新人育成はうまくいっている。現在の人員補充による中途採用者に対し、業務に余裕のない中、短期間で正確に業務を覚えてもらうよう指導していく。方法として、経験者については3週間、未経験者については1か月間チューターとなる職員と同じ勤務になるようにしてチューター制度を引き続き行っていく。また、指導が行き詰まるなど、指導に当たる職員が一人で抱え込まないように、引き続きリーダー、相談員とで情報を共有し、方向性の確認を行っていく。
- ⑤ 委員会活動においては、人員の減少により参加人数が減少し、2ヶ月に1回の開催に変更（一部の委員会を除く）していたが、それでも集まりの悪い状況が続いている。現在職員補充を行っているため人員が揃えば2ヶ月に一回委員会を開催し内容を現場にフィードバックし意義あるものとしていく。
- ⑥ 契約業務に関して、新相談員となっても滞りなく行っていけるようリーダーと協力し2名体制で進めていく。

- ⑦ 現在、リーダー、相談員のみが行っている上記以外の業務も、中堅となる職員をはじめとする他職員に振り分けを行い、リーダーの業務の軽減と他職員のスキルアップに繋げていく
- ⑧ 家族様からの苦情に対し、全員が内容を周知し統一した対応ができるよう、報告書や班内連絡ノートを活用していく。

## II. 活力ある職場作り

勤続年数2年以上の職員に対しリフレッシュ休暇（5日程度）を取れるようにすることで、介護疲れの軽減、気分転換を図るとともに退職者の減少にも期待する。加えて、リフレッシュ休暇を含め全員が年間6日以上の有給取得を実現するよう職員同士の理解と協力を行っていく

## III. 安全な職場環境への取り組み

体の大きな利用者も多く、介護業務における腰痛を少しでも軽減するため、衛生委員会より対策案の検討、ロボットやスライディングシート等の福祉用具の活用を行うとともに腰痛体操を義務化し、安全面と腰痛予防に力を入れていく。また衛生委員会によるカウンセリングを行うことで職員の精神的負担の軽減にも努めていく

## IV. 感染症の防止

昨年度は感染症を出すことなく済んだ状況であるが、今年も度感染症を出さないために、感染症マニュアルを再確認させ、周知徹底を行うと共に、ロールプレイを定期的に行うことで、緊急時迅速に行動・対処できるようにしておく。また、送迎確認の電話の際、体温に異常がないか、下痢や嘔吐の症状がないかなどの確認を必ず行い、流行を未然に防ぐ努力を行う。自己管理の徹底にも努め、自身が感染源にならないよう、うがい、他洗などの対策を各自が行っていく

## V. 緊急入所依頼について

昨年度より緊急入所加算のみとなった為加算が取りやすくなってはいるが、職員の減少により急な受け入れ態勢を整えることが困難であったため、人員を補充し業務が円滑に回るようにして受け入れ体制を強化していく。また、情報が少ない場合が多く不安になりがちであるが、各自が社会福祉法人としての使命を忘れず、受け入れをおこなっていく。そのためにも普段よりケアマネとの連携を密にし、また、施設の看護師・特養の主任・相談員とも連携を強化し協力して対応できる体制を整えていく。また、現在御立の静養室は機能していない為、倉庫として使用している居室を静養室として整えるなど緊急入所で使用する居室の整備を行っていく。

## VI. 事故の減少

事故件数は増加傾向であり、同じような事故が繰り返されて起こっているような状態である。その都度事故報告書を掲示し、対策を掲示しているが、あまり効果は出ていない。事故が起こり、対策を立てる頃にはその利用者が退所してしまっていることも多く、対策が根付いていかないとも言える。自立の方や新規の方に対しては難しいが、行動パターンを予測し、前もってできる対策を取ることで同じような事故の発生を防いでいく。短時間であっても利用者と目線を合わせやりとりし、触れ合うことで利用者についての情報、行動パターン、想い等をくみ取り、各自が気づいたことがあれば記録を残し、それを全員が必ず見て班内で共有するように努める。また、事故を防ぐことにより入院者の減少に繋げ、空床が出ないように心掛ける。

## VII. 収入・利用者の確保

今年度の収入は居室料の減額と、30日超過減算の増加によって（長期利用者の重度化により現在15～6名の方が帰宅するのが困難となっている為）約100万円の収入減が予測される。新規相談員として各ケアマネと連絡を密に取り、新たな関係性を作るべく営業活動に力を入れ、新規利用者獲得に努める。また、出来るだけ入院者を出さないようケアを徹底するとともに、支出を見直しいかに無駄な出費を省くことが出来るかが重要となる。今ある物品を丁寧に扱う、使っていない電気は消す等の基本的な事柄を全員が意識して実行し、光熱費・物品購入などの支出を抑えるとともに、人件費の削減、収益の増加を目指す。

ロングショートから特養へと言う流れができていく為、協力病院、特養の相談員、看護師との連携に努め、特養に空きが出ればすぐに動けるようにし、ショートの際の入所までの間ベットが空いてしまうことがないように、待機の方をスムーズに入所につなげられるよう入所希望の方を常にチェックしておき、営業活動に力を入れ居宅ケアマネ等との連携を強化していく。また、入院者のベットコントロールにも努める。

平成28年度の目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	10,549	11,149	10,763	10,894	11,448	10,987	65,790
平成28年度目標	10,802	10,922	10,802	10,922	10,922	10,802	65,172
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	11,868	10,595	11,320	11,200	10,550	10,550	131,873
平成28年度目標	10,922	10,802	10,922	10,922	10,196	10,922	129,858

※ 平成27年度2月、3月の実績については予想の額です。